金子みすゞ作品をたくさん読み，「金子みすゞベスト３」をつくることを通して， 金子みすゞ作品のよさを味わわせる。

第５学年１組　国語科学習指導案

指導者　山口　慶太

１．単元名　わたしとみすゞとベスト３と

２．学習材　「みすゞさがしの旅　―みんなちがって，みんないい」（教育出版　ひろがる言葉　５年下）
『金子みすゞ名詩集』（彩図社発行　彩図社文芸部編纂　２０１１年初版）【共通学習材】
他金子みすゞ詩集

３．単元について

（１）本単元でつけたい力

本単元では，主に，小学校学習指導要領・国語〔第５学年及び第６学年〕の「C 読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

C　読むこと		
内容	オ	文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。
	カ	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。
言語活動例	イ	詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

本単元では，矢崎節夫が「みすゞさがしの旅　―みんなちがって，みんないい」で述べている，「金子みすゞの作品は，小さなもの，力の弱いもの，そこにあるのに気がつかれないもの，本当は大切なものなのにわすれてしまわれがちなもの―――この地球という星に存在する全てのものに対し，深いやさしいまなざしを投げかけたものばかりです。」は本当なのか，という視点を基に金子みすゞ作品を読み，そこから作品を３つ選んだ「金子みすゞベスト３」というアンソロジーを編む。そこに，それぞれの作品の魅力や自分が読んで感じたことを書き添える。

これらの学習を通して，矢崎節夫が魅力を感じている金子みすゞ作品のよさを感じ取り，ふと立ち止まって考えると普段何気なく過ごしている日常生活の中にたくさんの魅力が溢れていることにも気づかせ，子どもたちの情操を育みたい。さらに，詩を読み深めていくおもしろさを味わわせたい。そして，金子みすゞ作品を好きになってもらえたら本望である。

（２）単元の目標

【知識・技能】

○金子みすゞ作品を読んで，日常生活に潜んでいるものの素晴らしさやそのよさに気づくことができる。（１（３）オ）・・・㊟

【思考・判断・表現】

○金子みすゞ作品を読んで，その作品のよさを感じ取り，そこから自分が考えたことをまとめることができる。（２Ｃ（１）オ）・・・㊟

○友達と「金子みすゞベスト３」を読み合い，それぞれ感じたことを共有することで自分の考えを広げることができる。（２Ｃ（１）カ）・・・㊟

【主体的に学習に取り組む態度】

○学習の見通しをもち，自らの学習の進度に合わせて学習を調整し，友達の考えも参考にしながら，金子みすゞ作品を読んで自分が感じたことを「金子みすゞベスト３」にまとめようとしている。

（３）本単元で行う言語活動

本単元では，金子みすゞの作品を読んで，矢崎節夫が述べている※「金子みすゞの作品は，小さなもの，力の弱いもの，そこにあるのに気がつかれないもの，本当は大切なものなのにわすれてしまわれがちなもの―――この地球という星に存在するすべ全てのものに対し，深いやさしいまなざしを投げかけたものばかりです。」（教科書１２６ページ　５行目～１０行目）を最も具現化していると思えるみすゞの作品を３つ選び，ランキング形式にして「金子みすゞベスト３」をつくるという言語活動を行う。これは，小学校学習指導要領「Ｃ読むこと」における言語活動例の「イ　詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。」を踏まえている。

「金子みすゞベスト３」とは，子どもたちが選んだ金子みすゞの詩３作品をアンソロジーにしたものである。①表紙②上記※の視写③詩の視写・絵④選んだ詩の批評文の４構成からなっており，各作品についての視写・絵と詩の魅力や感想は，３位から順番にカウントダウン形式で収録する。３位から順番に掲載するのは，次は何が出てくるのだろうという読み手の関心を高められるようにすると共に，作り手の１位への気持ちの高まりを表現できるといった理由からである。※の視写をするのは，詩を選ぶ視点を明確にするためである。金子みすゞの詩は，５１２編もの作品があるが，そのどれもが金子みすゞの深いやさしいまなざしを投げかけたもので，素敵な作品ばかりである。そのため，子どもたちは読み進めていくうちに自分の好きな作品を選ぶようになるだろう。それも素晴らしいことではあるが，今回は好きな詩を選ぶだけではなく，選んだ詩の批評文も書いていく。どのような視点で作品を選んだのか，読者に伝わるようにするためには，詩を選ぶ視点を明確にしておくことが重要な要素の一つとなる。それが，今回の矢崎節夫の言う「金子みすゞの作品は，小さなもの，力の弱いもの，そこにあるのに気がつかれないもの，本当は大切なものなのにわすれてしまわれがちなもの―――この地球という星に存在する全てのものに対し，深いやさしいまなざしを投げかけたものばかりです。」にいかに共感し，それを具現化した作品はどれかと批評することである。選ぶ視点を明確にすることで，そこに立ち返って詩の批評文を書くことができると考える。だから，※の記述を重視し，いつでも立ち返ることができるように視写をする。また，教師モデルの批評文には，その視点を明確に記述し，それを子どもたちと一緒に分析し，その視点を基に詩を選んでいくことを確認するようにする。

「金子みすゞベスト３」は，基本的にＡ４サイズの白紙を使用して作成する。選んだ詩を視写した後には，自分がその詩から想像する絵を添えて詩画集とするが，そのためには，マス目や罫線があるとその雰囲気や世界観を壊してしまう可能性があるからだ。しかし，クラスの中には字を真っ直ぐ整えて書くことが難しい子や丁寧に真っ直ぐな字を書きたいという子どももいる。そういった子には，マス目・罫線を書いてラミネートしたものを用意し，それらを下敷きにして書いてもよいこととする。また，筆記用具も筆ペン，クレヨン，マジック（太い・細い）など作品の表情に応じた表現ができるように選択させたい。批評文には，①白紙②罫線の入ったもの（文章多め，少なめ）を用意し，それらを書く際は，子どもたち一人一人が選べるようにする。選んだ３つの詩それぞれに批評文を書くため，あとがきを条件とすることはしないが，先述のように，金子みすゞ作品は素晴らしいものばかりであり，その素晴らしさから，子どもたちの中には金子みすゞ作品への想いが溢れ，３つの作品の魅力と感想だけでは書き足りない，と感じる子どもが出てくる可能性もある。そういった場合には，あとがきとして金子みすゞ作品全体への想いを書いてもよいこととする。

また，昨年度より一人一台タブレットが導入されていることから，タブレット内の Forms（Microsoft 社）のアプリを使い，単元の中で適宜どの作品を選んだかアンケートをとっていく。共通学習材としては，『金子みすゞ名詩集』（彩図社出版）を使用するが，並行読書として図書館から金子みすゞ作品が掲載されている本を多数借り，その中から「金子みすゞベスト３」の詩に選んでもよいこととする。Forms では，アンケート結果をその場ですぐにグラフ化できる機能が備わっている。それをクラス全体で共有することで，共通学習材から詩を選んでいる子にとっては，友達が共通学習材以外から選んでいる詩を知り，他の詩も読んでみたいという思いを起こすきっかけともなる。また，多くの子が選ぶ詩があることも想定されるため，それをグラフにして可視化することで，多くの人に共感や感動を呼ぶ詩だという根拠をもたせることもできる。そうして，個人で金子みすゞ作品を読み進めながらもクラスの子の存在も意識させることで，学びに広がりと深みをもたせ，協働的に学んでいくよさにも気づかせたい。

（４）学習材について

明治３６年４月１１日，山口県大津郡仙崎（現・長門市仙崎）に生まれた金子みすゞは，大正中期から昭和初期にかけて活躍した詩人である。活躍した，といっても金子みすゞが生きている間に詩集は一冊も出版されることはなかった。とはいえ，全く知られていなかったかというと，そうではない。大正デモクラシーの中で，誰もが新しい流れに新しい自分を発見し，生き生きと自己表現を始めていた大正時代,『赤い鳥』の北原白秋,『金の船』の野口雨情,『童話』の西條八十が競うように童謡作品を発表し，当時の若い文学少年少女はそれに憧れた。そのうちの一人であった金子テルは，大正１３年の６月「金子みすゞ」の名前で『童話』『婦人倶楽部』『婦人画報』『金の星』に初めて童謡を投稿した。『金の星』の選者は野口雨情だが，残りの３つは西條八十であった。この西條八十とも金子みすゞは後に大きく関わることになる。そして，処女作の『お魚』を始めとして,『打出の小槌』『芝居小舎』『おとむらひ』『八百屋のお鳩』がそれぞれの雑誌に載り，童謡を書き始めてわずか１ヶ月とは思えない鮮烈なデビューを果たした。選評では，西條八十も「大人の作では金子さんの『お魚』と『打出の小槌』に心を惹かれた。～中略～あの英国のクリスティナ・ロゼッティと女史のそれと同じだ。」と金子みすゞという童謡詩人の登場を喜んでいる。その後も，雑誌『童話』にて,『砂の王国』『紋付き』『美しい町』『おとむらひの日』『噴水の亀』『大漁』『おはなし』『色紙』『楽隊』『浮き島』『喧嘩のあと』『神輿』『石ころ』『つつじ』『硝子』『子供の時計』『箱庭』『花びらの浪』『電報くばり』など次々と選ばれ掲載された。読者の声が掲載される，雑誌『童話』の通信欄では，金子みすゞ作品の素晴らしさを語る者も多く，選者の西條八十だけでなく，若い読者からの支持を得ていたことがわかる。そうして，投稿する度に西條八十に選ばれ，ついには「若い童謡詩人中の巨星」とまでいわれるようになった。金子みすゞは，２０歳から２５歳までの間に５１２編もの作品を生み出し，西條八十と金子みすゞの実の弟の上山雅輔が持っていた３冊の手帳『美しい町』『空のかあさま』『さみしい王女』にその全てが記されている。

しかし，そんな金子みすゞも大正１５年に結婚した宮田敬一により，童謡の創作を止めさせられてしまう。童謡創作を止めた後も，昭和４年１０月から娘の房枝が話し始めた片言の愛らしい言葉を「南京玉」と題したノートに書き記し続け，常にペンを持っていたことが窺える。その後，金子みすゞの申し出により夫・宮田敬一と昭和５年２月に離婚をすることとなる。金子みすゞは一人娘の房枝を引き取ることを望み，宮田敬一もそれを一時許容するも，やはり娘を引き取りたい旨を金子みすゞに手紙に送った。その手紙には３月１０日に娘を引き取りに行くと書かれており，それを読んだ金子みすゞは，その前夜の昭和５年３月９日，娘を風呂に入れた後，「ふさえ（みすゞの娘）は私の母にあずけてほしい。」という遺書を遺して，睡眠薬を大量に摂取し翌１０日他界した。こんなにも素晴らしい童謡詩人が自死を選ぶことは，非常に悲しいことではあるが，「そこにも母の優しさがある。」と娘の房枝が後のインタビューで語っている。当時の親子関係としては，子どもは自分のものとして，残しては死ぬことはできないと，道連れにするのが当然という考え方がふつうであったが，金子みすゞはそれをしなかった。それは，子どもを自分のものとして考えるのではなく，一つの命として想っているからではないか，という理由からだ。

金子みすゞの生まれ育った，山口県大津郡仙崎は，三方を海に囲まれた土地柄をもつ小さな漁師町である。一匹の鯨に七浦にぎわうといわれたこの時代，この仙崎も鯨漁の盛んな地域のひとつであった。当時の鯨漁には危険が伴い，命を落とす漁師も少なくなかったという。その他にも，鰯漁や烏賊漁も盛んで，仙崎の人たちは常に，大切な様々な命とともに生活していた。そんな命に対しての敬意を町の人たちみながもっていたのである。その証拠に，仙崎の北部に位置している青海島には，鯨の墓が建てられている。また，金子文英堂という本屋を営んでいた金子みすゞの母ミチは，想像力に溢れ文章表現に優れていた。ミチは何度も金子みすゞら子どもたちに,「ひとつのことを見たら多くのことを考えなさい。雲を見るでしょう。そうしたら，白い雲，綿のような雲，ようなを取って綿雲，それからスワン雲…というふうにね。」と教えていた。そんな環境で，感性を磨きながら育った金子みすゞは，矢崎節夫の言うように,「この地球という星に存在する全てのものに対し，深いやさしいまなざしを投げかけた」作品を

多く生み出した。

その中でも，今回教師が作成する「金子みすゞベスト３」には，３位『積つた雪』２位『こころ』１位『わたしと小鳥とすずと』を収録した。『積つた雪』の魅力は，「発想の豊かさ」と「連の構成の巧みさ」の２点にあると考える。普段，雪を見て，「重かろう」「さむかろう」なんて考えることはないが，金子みすゞは，雪の視点に立って考えているのである。そこに発想の豊かさを感じる。また，この詩は３連からなっており，１連から，上の雪，下の雪と述べられている。雪の視点に立って物事を考えることはなかったが，言われてみると上の雪，下の雪のことを想像することは容易い。しかし，金子みすゞはその二つで終わることなく，最後の第３連に「中の雪　さみしかろな　空も地面もみえないで。」と綴っているのである。それを第３連にもってくる意図に，金子みすゞの連の構成の巧みさを感じる。

２位の『こころ』の魅力は，「視点の転換」にあると考える。第一連に「おかあさまのおこころはちいさい」とある。心が小さい，というと気の短さ等を思い浮かべるが，そうではなく，母親の心が小さい娘でいっぱいだ，ということに対して「心が小さい」と表現しているのである。そして，その後「わたしの心は大きい　だって，大きいおかあさまでまだいっぱいにならないで　いろんな事を思うから」と続いていく。母親への愛も語りつつ，自分の心の豊かさを言葉巧みに表現しているのである。金子みすゞは，このように視点を転換させる作品を多く生み出している。

第１位に選んだ『わたしと小鳥とすずと』の最大の魅力は，連の構成と言葉の順序にある。題名に『わたしと小鳥とすずと』とあるように，最初に書かれているのは「わたし」である。しかし，最後の第３連には「すずと，小鳥と，それからわたし」というように，題名とは順序が変わり，「すず」が最初に書かれている。これは，すべてのものを平等にみていることを表現しているのではないかと推察される。しかし，そうなると気になるのは「小鳥」を最初に表現しているのはどこなのか，ということである。注目すべきは連の構成である。この詩は３連からなっており，第１連には「小鳥」のことがえがかれている。金子みすゞは，このようにして，言葉の順序や連の構成を駆使して，すべてのものに対する平等性を表現しているのだ。また，金子みすゞは，自分にできないことをできる存在を，最初はうらやましがっていたのではないかと思われる。なぜならば，第一連では「お空はちっともとべないが」，第二連では「きれいな音はでないけど」というように，自分には「できない」という表現から始めているからだ。しかし，その後，それぞれにできることを述べていくことにより，最後の「みんなちがって，みんないい」という前向きな表現へと変わっていっているのではないかと思う。

この他にも深いやさしいまなざしを投げかけた作品は多くあるが，以上の理由により，教師モデルには『積つた雪』『こころ』『わたしと小鳥とすずと』の３つを選んだ。

そんな，深いやさしいまなざしを投げかけた作品ばかりを生み出したにも関わらず，生きている間に詩集が一切出版されなかった金子みすゞの作品を，後に見つけ出したのが，本学習材の著者である矢崎節夫だ。矢崎節夫が初めて金子みすゞ作品と出合ったのは，昭和４１（１９６６）年，大学１年生の時である。既に金子みすゞ没後３６年もの年月が経過しており，出合った作品は『日本童謡集』という本の中に載っていた『大漁』一編だけだった。しかし，その１編の詩に出合うことで矢崎節夫のみすゞさがしの旅が始まり，この出合いが無ければ金子みすゞの作品がこんなにも世間一般に知られることはなかったかもしれない。『大漁』という詩に描かれた金子みすゞのやさしい眼差しに魅せられた矢崎節夫は，金子みすゞの作品をもっと読みたいと思い，古本屋を探すも金子みすゞの作品はおろか，名前すらも見つけることができなかった。前述の通り，金子みすゞが生きている間に詩集は一冊も出版されていないので当然のことである。その後も矢崎は諦めることなくみすゞさがしを続け，『大漁』と出合った２年後，出版社でアルバイトをしていた折，名作を集めた童謡集の解説原稿を受け取りに行くと，その原稿の中に『つゆ』を見つけた。その際，みすゞが山口県下関に住んでいたこと，当時の若い詩人の憧れであったこと，２６歳の若さで亡くなったこと，作品を書き溜めた３冊の手帳が西條八十の手元にあることを知ることができた。そこから，西條八十の娘経由で三冊の手帳の行方を探ろうとしたが連絡をとることができなかった。それから更に２年後，３０編ものみすゞ作品が載った金子みすゞ童謡集『繭と墓』と

出合うことで，みすゞが，下関の商品館に入っていた本屋で働きながら作品を投稿していたことを知った。しかし，そこからみすゞさがしは難航した。それから１０年もの年月が過ぎ，矢崎が縁あって下関に出向くことが増えた際，商品館経由で探すことを思い立った。すると，花井正というみすゞのいとこに出会うことができた。花井正と出会うことで，東京で児童劇団をつくっている上山雅輔という，金子みすゞの実の弟まで辿り着いた。この上山雅輔と出会うことで，みすゞさがしの旅が急速に進んでいくことになる。上山雅輔と出会ってから，１週間も経たずにみすゞ作品５１２編全てが書かれた３冊の手帳『美しい町』『空のかあさま』『さみしい王女』に加えて，みすゞが２０歳の頃に撮ったと思われる写真まで手に取ることができたのだ。３冊の手帳は，夫に童謡創作を禁じられた後に，自分の作品は西條先生と弟の雅輔にだけわかってもらえばいいと，清書したものを西條八十に，原本を弟の上山雅輔に渡したものだった。それから，みすゞの生まれや出身，家族構成，本名，学生時代の話や初めて雑誌『童話』に投稿した話など，様々なことを雅輔から教えてもらった。矢崎が大学１年の時,『大漁』と出合ってから，１６年もの長い年月をかけて，みすゞの全作品と生涯に辿り着くことができたのだ。それから２年後の昭和５９（１９８４）年，３冊の手帳を基にして『金子みすゞ全集　全３巻』(JULA 出版局)が矢崎節夫の手によって出版され，金子みすゞの名が広く世間に知れ渡ることとなった。金子みすゞの死から５４年もの時を経ての出版である。それから，東京書籍，学校図書の４年上に『ふしぎ』，光村図書の３年上に『わたしと小鳥とすずと』，そして，教育出版５年下の『みすゞさがしの旅－みんなちがって，みんないい』において『大漁』『わたしと小鳥とすずと』など，平成８（１９９６）年以来，小学校教育課程すべての国語の教科書に金子みすゞの作品が掲載されており，今や日本国民のほとんどが金子みすゞの名前と作品を知っていると言っても過言ではないほどになっている。さらに，矢崎は,『金子みすゞ全集』出版以来，多くの金子みすゞ詩集に携わるだけでなく，平成１５（２００３）年，山口県長門市仙崎のみすゞ通りの金子文英堂跡地に建てられた「金子みすゞ記念館」の館長を務め，現在も金子みすゞ作品の普及に力を注いでいる。

子どもたちが本学習材と出合う際には，こうした金子みすゞの生涯や，教科書だけでは知り得ることのできない矢崎節夫のみすゞさがしの旅の背景をつけ加えながら着語読みの手法で出合わせ，廊下掲示なども活用して，本学習材や金子みすゞ作品を読み深めることに繋げていきたい。

（５）子どもの実態（男子１２名　女子１６名　計２８名）

子どもたちは，これまで「水平線」「うぐいす」において，詩を視写・音読する言語活動を行ってきた。「水平線」においては，視写をすることで，言葉がすべて水平線と同じように一直線に描かれていることに気が付き，音読することで，連ごとにくり返される言葉やリズムの心地よさに触れることができた。「うぐいす」においては，音読をする際に，間をあけるべきところや音読のリズムを変えるとより詩の世界を表現できるところを考えて音読した。そうすることで，言葉によって情景が豊かに表現されることを感じ取っているようであった。

また,「俳句を作ろう」の学習では，NHK 全国俳句大会の入選作品を１５０作品以上読み，気に入った作品を視写して「お気に入り俳句集」にまとめ，それからテーマを決めて，テーマに合うベスト３を選んで「〇〇ベスト３」というアンソロジーを編み，そこに自分の作った俳句を書き添えるという言語活動も行ってきている。初めは，たくさんある俳句に面食らっていた反応も見られたが，学習が進むにつれて，お気に入りの俳句を書き写すことがおもしろいと感じたようで，中には９０以上もの作品を書き写す子もみられた。「俳句を作ろう」の学習を通して，よい作品をたくさん読むおもしろさに気がついているようだった。

本単元では，金子みすゞ作品を読み，そこから３つの作品を選び「金子みすゞベスト３」というアンソロジーを編む言語活動を行うが，自分のお気に入りの作品を書き写すものだった「俳句を作ろう」の学習とは違い，矢崎節夫のいう「金子みすゞの作品は，小さなもの，力の弱いもの，そこにあるのに気がつかれないもの，本当は大切なものなのにわすれてしまわれがちなもの―――この地球という星に存

在する全てのものに対し，深いやさしいまなざしを投げかけたものばかりです。」は本当なのか，という視点を基に作品を選ぶ必要がある。それが，アンソロジーを編んだ後に書く，詩の魅力と感想に繋がっていくのだ。自分のお気に入りをたくさん書き写すおもしろさもあるが，一つの視点を基に選び，そこから作品を見ていくことで，矢崎節夫の金子みすゞ作品への愛情と金子みすゞ作品の奥深さを感じ取らせ，ある視点を基に作品を選ぶおもしろを感じ取らせたい。さらに，金子みすゞ作品をたくさん読むことで，これまで視写と音読だけでは感じ取ることのできなかった，連の順序の意図や巧みな言葉の使い方，日常生活の視点の切り取りなど詩を読み深めて，学習を深化させ，自己の読解力が向上していくことも実感させながら学びを進めていきたい。

（６）指導観

〔見いだす〕

□本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

①学習の見通しをもたせ，主体的に学習に取り組ませるために，子どもたちと単元計画をつくる。

第１次では，教師が作成したモデルを提示し，子どもたちに「自分もつくってみたい。」という意欲をもたせる。提示する際には，教師モデルのおすすめポイントとして，批評文と詩の絵に教師がこだわってつくったことを紹介する。教師モデルの批評文は，詩をどのように分析したのか具体的に記載してある。そうすることで，詩をどのように読み深めたらよいのか，批評文をどのように書いていったらよいのか子どもたちが，「金子みすゞベスト３」をつくる際の手がかりとなるようにする。また，詩の絵はそれぞれ，クレヨンや色えんぴつを駆使して描き，文字もマジック（太い・細い），筆ペンと，それぞれの詩の表情に合うように書いている。そうした点にこだわっていることを紹介することで，子どもたちが自分なりのおすすめポイントは何か考えながら「金子みすゞベスト３」をつくり，金子みすゞ作品や自分の「金子みすゞベスト３」への愛着がわくようにしたい。その後，教師モデルのよさや内容を分析し，「金子みすゞベスト３」をつくるためには，自分たちがどのような学習を進めていったらよいのか見通させ，学習の計画を子どもたちと一緒に立案していく。「金子みすゞベスト３」をつくり始める際には，２８名全員が全く同じタイミングでつくり始めることは考えられない。そのため，それぞれの学習の進度で進めていくことを基本とするが，どの進度の子どもでも，自分が次にするべき学習は何かがわかり，主体的に学習に取り組むことができるように，つくった学習計画を可視化して，クラスに掲示しておく。そうすることで，学習の見通しをもたせ，個別最適化の学習を図っていく

〔自分で取り組む〕

□児童が自ら情報を収集し調べることができるように，環境等を用意しておく。

②『金子みすゞ名詩集』を１人１冊購入し，共通学習材として読み進める。

彩図社発行，彩図社文芸部編纂の『金子みすゞ名詩集』を共通学習材として１人１冊購入して読み進めていく。その『金子みすゞ名詩集』には，金子みすゞ作品全５１２編のうちの９３編が載っており，子どもたち全員がその９３編を読み切ることとする。難しい漢字や熟語にはルビが振ってあるが，クラスの中には，易しい漢字でも読み進めることが難しい子がいることから，別室で教師が着語読みをするなど，個々の支援を充実させる。また，市内図書館から他の金子みすゞの詩集や詩画集を借り，多読コーナーとして設置し，共通学習材以外からも詩を選んでもよいこととすることで，多読にも繋げていきたい。読み進め方の選択や共通学習材以外の本からの詩の選択といった手立てを講じることで，学びを自分で選ぶ学習の個性化を図っていく。

〔自分で取り組む〕

□児童が自分の考えを形成したり，思いや考えを基に創造したりする時間を確保する。

③学習計画を掲示し，自分の学習の進度に合わせて学習を進められるようにすると共に，「金子みすゞベスト３」をつくる時間を十分に確保する。

第１次において，子どもと一緒に立案した学習計画を，可視化して教室内に掲示しておく。「金子みすゞ

ベスト３」をつくり始めるタイミングは，子どもによって様々なはずである。自分のお気に入りがすぐに見つかり，早く作り始めたい子や，多読して金子みすゞ作品の世界にじっくり浸りながら選ぶ子など多様な学習の進度が想定される。また，つくり始めてから「やっぱりもう一回読み直そう」と考える子が出てくる可能性もある。そうして，自己の学びを調整しながらも，全員が同じゴールを目指せるように学習計画を掲示すると共に，「金子みすゞベスト３」をつくる時間を十分に確保する。

〔自分で取り組む〕
□児童が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように，取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。
④作品の魅力や感想にはどんなことを書けばよいのか，子どもたちと一緒にモデルを分析し，掲示する。
第１次で教師モデルと出合った際，選んだ３作品に対する，それぞれの詩の魅力と感想にはどんなことが書かれているのかよく分析するようにする。批評文は，「序文」「本文」「まとめ」の３構成でモデルを作成する。自分のこれまでの生活経験やその詩を選ぶに至った経緯を「序文」，連の構成や言葉の巧みさ，切り取る視点の鋭さなど，金子みすゞ作品の魅力を「本文」，矢崎節夫のいう金子みすゞ作品の魅力を「まとめ」に書き，それを子どもに着目させたい。また，「本文」には，詩をどのように読み深めたのか，子どもたちにもわかるような言葉を使いながら具体的に表現していく。そうした教師のモデルに出合わせることで，子どもたちが批評文を書く際の手がかりとしたい。そして，それを教室内に掲示することで，子どもが書く時に参考にできるようにしておく。

〔自分で取り組む〕
□児童が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように，取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。
⑤「金子みすゞベスト３」を友達と読み合った時に，何を褒められたいか考えながら作成させる。
後述するように，ライティング・カンファレンスの手法で「金子みすゞベスト３」を読み合うが，読み合った後には，褒め褒めタイムを入れて，お互いの作品を認め合うようにする。「読み合った時に友達に何を褒められたいか」を考えながら，「金子みすゞベスト３」を作成するように第６時の始めに声をかける。第５時から，「金子みすゞベスト３」をつくり始める予定だが，つくり始めたばかりの時に，そのような声かけをされても，子どもたちの中では不明瞭なものになってしまうし，第７時になると作品づくりが進行してしまうので，第６時に声をかけることが有効だと考えるからである。自分が詩をどのように読み解いたのかわかるように絵にこだわって表現する子や，選んだ詩の何が素晴らしいのか読者に伝わるように「批評文」の書きぶりにこだわる子など，子どもたちの金子みすゞ作品への想いは多様である。そのような想いを軸とするために，「この冊子を読んだ友達からどんな感想を引き出したいか」を常に考えさせながら「金子みすゞベスト３」をつくらせ，金子みすゞ作品や自分の「金子みすゞベスト３」への愛着を高めるだけでなく，金子みすゞ作品の理解を深めさせ，自分がなぜその作品を選んだのか，自分の考えをより明確にさせるようにする。

〔広げ深める〕
□児童が多用な考えを理解できるように，互いに学び合う場面を設定する。
⑥Forms（Microsoft 社）のアプリを使い，どの作品を選んだか適宜アンケートをとる。
１人１台タブレットが導入されていることを受け，タブレット内の Forms（Microsoft 社）のアプリを使い，金子みすゞ作品のどの作品を選んだか単元の中で適宜アンケートをとっていく。Forms には，アンケート結果をその場ですぐにグラフ化できる機能が備わっている。共通学習材以外から「金子みすゞベスト３」の詩に選んでもよいこととするが，アンケート結果をグラフにして，クラス全体で共有することで，共通学習材から詩を選んでいる子にとっては，友達が共通学習材以外から選んでいる詩を知ることで，他の詩も読んでみたいという思いを起こすきっかけとすることができる。また，多くの子が選ぶ詩があった場合，多くの人に共感や感動を呼ぶ詩だという根拠をもたせることもできる。そうして，個人で黙々と金子みすゞ作品を読み進めて，「金子みすゞベスト３」をつくり，表面上は沈黙して学習を

していたとしても，クラスの子の存在も意識させ，心の中で自己や友達と対話させることで，協働的に学んでいくようにしたい。

〔広げ深める〕
□児童が多用な考えを理解できるように，互いに学び合う場面を設定する。
⑦ライティングカンファレンスをして，自分の作品を自ら見つめ直したり，互いの作品のよさを味わったりする。
「金子みすゞベスト３」をつくり終えた後に，ライティングカンファレンスの手法を用いて作品の交流をする。相手から質問されたことに答えることで，自分自身で自分の作品を見つめ直せるようにする。それを３回くり返すことで，自分の考えをより明確に，より豊かにすると共に，自分が作った「金子みすゞベスト３」そして，金子みすゞ作品への愛着も高められるようにしたい。質問項目の中には，「どうして〇〇を１位にしたのか。」という質問を入れることで，選んだ金子みすゞ作品への想いを友達と生き生きと語り合う姿を目指したい。また，友達と作品を読み合うことで，自分だけでは気がつかなかった詩の解釈や視点を共有し，金子みすゞ作品への理解をより深め，協働的な学び合いによる相互作用の価値も再認識させたい。

〔まとめあげる〕
□児童が板書やノート，作品等を通して思考の過程を振り返り，学んだことをまとめる場面を設定する。
⑧単元の最後に，３観点で自己の学びを振り返らせる。
単元の最後には，①「金子みすゞ作品を今回のようにたくさん読む体験はどうだったか。」②「選んだ金子みすゞ作品の魅力を自分の言葉で表現する活動はどうだったか。」③「学習する前と比べて変わったこと・ついた力は何か。」の３観点で振り返りを行う。そうすることで，子ども自ら自分の学習を振り返り，自身が成長したことを認め，達成感や成就感を味わわせると共に，メタ認知能力の向上も図っていく。そして，金子みすゞ作品と出合えてよかった，と思えるような学習にしていく。

４．全体指導計画（１０時間扱い）

次	時	主な学習活動	〇教師の留意点　☆評価（方法）	
第一次	1	「みすゞさがしの旅」と出合う。 ・金子みすゞ作品から，地球という星に存在する全てのものに対する深いやさしいまなざしと矢崎節夫の情熱を感じとる。	〇本文だけでは知り得ない，金子みすゞの生涯と矢崎節夫のみすゞさがしへの情熱を交えて着後読みで「みすゞさがしの旅」と出合わせる。 ☆『わたしと小鳥と鈴と』『大漁』のよさに気がついている。（㊟態度・発言）	金子みすゞ作品の並行読書↓
	2	教師モデルを提示し，学習の見通しをもつ。 ・教師モデルの内容を分析し，どのような学習をしていけばよいのか，学習の見通しをもち学習計画をたてる。	〇教師が批評文と詩画にこだわって作成したことも含めて教師モデルを紹介し，単元への意欲化と学びの見通しをもたせる。 〇詩の魅力と感想には，どんなことが書かれているのか子どもたちに着目させる。 ☆どのような学習をすればよいのか，学習の見通しをもとうとしている。（㊟態度・発言）	
	3 4	『金子みすゞ名詩集』と出合い，読み進めていく。 ・お気に入りに付箋を貼らせる。	〇付箋を用意し，ベスト３に入りそうなものに貼らせる。 〇別室で教師による着語読みで読み進めても	

第 二 次		・自分で読み進めるか，読み聞かせで読み進めるか選ばせる。 ・Forms を使って，１位になりそうな詩のアンケートをとる。	よいこととする。 〇Forms を使ってアンケートをとる。 ☆友達の考えも参考にしながら，金子みすゞベスト３に入りそうな詩を選ぼうとしている。 （㊥態度）	
	5 本時 6 7 8	「金子みすゞベスト３」をつくる。 ・詩を３つ選び，「表紙」「※の視写」「詩の視写・絵」「詩の魅力と感想」をかいて，ベスト３を編んでいく。	〇詩の視写・絵は白紙を使用させ，必要な子が使えるように罫線もしくはマス目の入った下敷きを用意する。 〇詩の魅力と感想用に，①白紙②罫線（多め・少なめ）の入った紙を用意して，自分が使うものを選ばせる。 ☆金子みすゞ作品のよさを感じ取り，そこから自分が考えたことをまとめている。 （㊦態度・ワークシート）	
	9	友達とベスト３を読み合い，ライティング・カンファレンスを行う。 ・作品を交流して，自身の作品を見つめ直す。 ①あなたはこの作品を読んだ人から，どんな感想がほしかったの。 ②そのために努力したことって何？ ③その努力はうまくいっている？ ④1位・2位・3位の差はどうやってつけたの？ ⑤ランク付けで悩んだことある？ ⑥金子みすゞさんの作品の魅力を一言で語るとなんだと思う？	〇相手に質問されたことに答えることによって，自分の作品と自ら向き合い，自分の考えをより明確に，より豊かにさせる。 〇３人以上繰り返してカンファレンスをすることで，自分の考えをより明確に，より豊かにさせる。 ☆友達と作品を読み合い，友達や自分の考えのよさに気がつき，自分の考えを広げている。 （㊤発言・態度）	
第 三 次	１０	単元のふり返りをする。 ①金子みすゞ作品を今回のようにたくさん読む体験はどうだったか。 ②選んだ金子みすゞ作品の魅力を自分の言葉で表現する活動はどうだったか。 ③学習する前と比べて変わったこと・ついた力は何か。	〇左記の３観点で振り返らせることで，達成感や成就感を味わわせ，自分の成長に気がつかせる。 ☆金子みすゞ作品から，日常生活に潜んでいるもののよさや素晴らしさに気がついている。 （㊧発言・ノート）	

５．本時の指導（５／１０）

（１）目標

金子みすゞ作品のよさを感じ取り，そこから自分が考えたことをまとめることができる。

（【思考力・判断力・表現力等】２Ｃ（１）オ）

（２）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問　・子どもの反応	○教師の留意点　☆評価（方法）
1	１．学習問題を確認する。 矢崎さんが主張するみすゞの魅力にピッタリとくる詩を３つ選んでベスト３をつくろう。	○掲示した単元計画を基に見通しをもたせる。
3	２．ベスト３をつくるために必要なものを確認する。 ◇詩の視写・絵は白紙でかく。 ◇詩の魅力と感想は，①白紙②罫線（多め・少なめ）から自分で選ぶ。 ◇白紙を選んだ場合は，マス目・罫線の入った下敷きを使用してもよい。 ◇表紙と裏表紙は，複数の色画用紙から，自分のイメージに合ったものを選ぶ。	○詩の視写・絵は白紙でかくことを伝える。 ○詩の魅力と感想は，①白紙②罫線（多め・少なめ）から自分で選ぶことを伝える。 ○マス目・罫線の入った下敷きを用意し，それらを使ってもよいことを伝える。 ○学習を個々ですすめる際に困らないように，使う紙は多めに用意しておく。 ○表紙と裏表紙は，自分のベスト３に合う色の色画用紙を選べるように，複数の色を用意しておく。
３６	３．各自でベスト３をつくる。	○個人で学習をすすめる際に困らないように，前時までに分析した教師モデルを掲示しておく。 ○前時までに分析した教師モデルを，個人でもすぐに確認でき，なおかつ，オンライン授業を受ける子どもでも確認できるように，タブレットを使って教師モデルを配付しておく。 ○手が止まっている子がいないか確認しながら机間指導をする。 ○なぜ手が止まっているのか見極め，個々に支援する。 ○どのように書き進めたらよいのか困っている子には，教師モデルを見返すようにさせる。 ○どの詩を選ぼうか迷っている子は見守り，必要に応じて声をかける。。 ○詩の絵に迷っている子には，詩の魅力をどう捉えているのか聞き出し，それに合う筆記用具を選ばせる。
3	４．Forms で現在選んでいる１位は何かアンケートをとる。	○前時までと同様の質問項目と選択肢にして，前時までの結果と比較できるようにする。
2	５．次時の確認をする。 ◎何か困っていることはありますか。 ・ありません。	☆金子みすゞ作品のよさを感じ取り，そこから自分が考えたことをまとめていたか。 （㊢態度・ワークシート）